

無料のタウン誌です。ご自由にどうぞ



Life Crossing

人生・生活・命の交差点／季刊（創刊2001年）

2023年夏・73号

信条・世に媚びず ・ 粹にとらわれず
・ 言いたいことはハッキリ言おう

発行／吉田 進

携帯 090-3168-1063

FAX 072-863-0605

〒110-0015

東京都台東区東上野 3-26-10 FC204号

URL : <http://lifecrossing.ne.jp/>

E-mail : info@lifecrossing.ne.jp

CONTENTS

世の中・社会・文明・歴史・家族・
自分のことを書いています。

「核兵器禁止条約」前進
中露の「覇権」を
多数国の力で止めさせよう
吉田 進…2

大仏師松本明慶師の深層に迫る
宇宙生命哲学者 伊藤 俊洋…3

「火中の栗」拾った女性候補2人の闘い
大阪府知事・大阪市長ダブル選挙を終えて
法学者 谷口 真由美
前大阪市議員 北野 たえこ…4/5

子育て議員の現代版選挙法
「ないないない選挙」
東京・江東区議員 酒井 なつみ…6

ある憂鬱
北里大学名誉教授 馬淵 清資…7

新外交イニシアティブ(ND)の提言より(中)
台湾を巡る「戦争を回避せよ」
要約文責・当誌…8

ある台湾人の米中台関係への意見
在台北市工場経営者 久 芳 太…9

戦争という嵐を呼ぶ
Jアラートをやめさせよう
東京都 三田 栄考…10

マイナンバー申請時のお金は
どこから出てるの？
「市民参加条例」推進委員会代表 松井 学…11

日本国憲法の新たな源流の発見
—「平和憲法をつくった男 鈴木義男」
を上梓して—
東北学院大学名誉教授 仁昌寺 正一…12

松平春嶽(上) 政権への可能性
東京 阿部 敏夫…13

「新しい戦前になるんじゃないか」
大阪 原野 通有…14

八十の手習い 岡安 慶子…15

余録／編集後記……………15

UAEのドバイで絵を売り込もう(21)
映画監督 増山 麗奈…16



宇宙生命哲学者(伊藤俊洋氏)が京都大原野の松本明慶工房を訪ねた(製作中の埼玉県上尾市の遍照院さんに納める不動明王の前で)

「核兵器禁止条約」前進

中露の「覇権」を多数国の力で止めさせよう

吉田 進

「鯉のぼれ」子らより大人声高し

かつて経験したことがないコロナパンデミックは、3年4カ月ぶりの長いトンネルの先に一抹の光が見えてきた。大空を見上げ、元気に舞う鯉のぼりに誰でも大声を発したくなる。「パンデミック」の著書を拾い読みした。

——14世紀の伝染病ペスト・パンデミックでは死者2億人で、後世に教訓を残している①。当時は感染微生物への知識がなかった②。暮しの根っこは宗教社会にあり、病気は「神罰」とされ、③病魔に襲われた者は社会の疎外者と決めつけ差別した。それから6世紀たった今も、その残滓は消えないから驚く。

歴史はくねくね曲がり道。各国は一つになって助け合い平和の道を進まねば、何ごととも解決しないことを今回のコロナパンデミックが教えている。

「少子高齢化社会」のシソーゲーム

人口は2070年まで、1年に80万人が減り続けるとか。原因は、男女が経済的理由で結婚しない、出産しない人が年々増えていくという。43年には3人に1人が高齢者となり、「生産年齢人口」が減少。逆に高齢者

への経済負担が増えるとか。その改善策は女性が安心して働き、子どもを生める環境を公費等で援助することに尽きる。

一方、いつも年寄りの患者で混む病院で「50、60は花でいう

きはしたくない」という多くの年寄りの声に耳を傾けてや。

プーチンは下手な手品師だ

さしずめプーチンは、「ウソつき戦争宣伝マン」といったところか。たと



伊丹市・昆陽池で天空を泳ぐ鯉のぼり

ならまだ蓄。70、80は働きざかり。90になってお迎えが来たら、100になるまで待てと追い返せ」という有名僧の書が目に入った。考えた。この僧は「百歳まで働け」と言うんかい。仏僧なら、巷の「人生長生

「弱きを助け強きをくじく」の

場にするのが基本。彼が怒りを抑え、「核使用」をちらつかす露軍へ配慮したのが痛ましい。プー氏はその心根を知らねば。

賃上げが格差拡大とは

「弱きを助け強きをくじく」の

が政治の常道。失敗した「アベノミクス」の流れに乗る政府。日銀は、各国が金融引き締めで金利を上げたのに反し、金融緩和で円安・株高を誘導。大企業は円安で自社商品の輸出を拡大し、諸物価をアップした。一方、賃上げのない年金生活者や生活保護者はどうすればいいのか。格差だけが拡大する。

最後に、ナショナルセンターの「連合」は、各単産は他団体の方針に「反対せず、闘わず」を約束、統合した。大手民間労組は「原発」「改憲」「軍拡」に賛成し、政党を割り「国民民主党」として、自民を含み、「維新」「公明」との共闘を進めている。戦前の大政翼賛会に似てきた。

一方、専守防衛の「盾矛」論だが、核戦争で核攻撃には先も後もない。とにかく、人類全滅の核戦争に表題の条約を各国が多数で決めることが先決。ところで、核使用で脅すロシアや覇権主義の中国にひとことの苦言を呈し終わりにしよう。

プーさんも習さんも、心から笑わんな。では、小生が教えてしんぜよう。まず人を殺すな。多くから喜ばれる人間になれば、自ら「笑いの門に福笑い」が来るわ。

※大政翼賛会 1940年、近衛文磨らを中心に新体制運動のために結成した官製組織。全政党が解散し、これに加わった。1945年、国民義勇隊へ発展的解消

大仏師松本明慶師の

深層に迫る

宇宙生命哲学者

伊藤 俊洋（神奈川県）

前号（72号）に引き続き、松本明慶ワールドの紹介をさせて頂きます。明慶さんは、京都の自然豊かな大原野に、木彫大仏の大規模な工房を構え、40名を超える弟子を統率しながら、高さ18メートルを超える巨大大仏を創作しておられる。この度、念願が叶って、現地を訪れることができた。

2023年、春爛漫の良き日、本誌関係者の案内で、京都駅から霞たなびく田園地帯を30分ほどドライブすると、竹林の先に、巨大な要塞のようなトタン葺の工房が忽然と現れた。その大きさは、日本のみならず、世界にも類がないと言う。それなら宇宙で一番かもしれない。

扉が開くと、正面に制作中の大仏の頭部が、圧倒的な存在感で迫ってきた。工房は、乾燥した木の香りに満ち溢れていた。大仏制作の工法は、平安時代の仏師・定朝が開発し、その後、鎌倉時代に、運

慶によって完成された「寄木造り」で、明慶さんは、運慶・快慶の流れをくむ「慶派」の唯一の継承者でもある。

まず目的とする大仏の高さ十分の一の雛形を作り、十画分に切り分け、その雛形に基づき本体を粗彫りし、寄せ合わせる。全体像が出来上がる。作業は分業制で、すべての担当者力量は、優れたものでなければならぬ。チームを束ねる棟梁には、制作期間を通して、あらゆる場面を想定しながら、緊張感を持ってやり遂げる意志の強さが求められる。

1週間前に劇的な展開で世界一に輝いたWBCの侍ジャパンが話題になったとき、明慶さんは、世界中から喝采を浴びた栗山監督の采配に対し、辛口の評価をされた。短期決戦でスランプの選手を使い続けるのは如何なものかと仰る。私は、大仏建立を統括する大仏師の心の深層には、並々ならぬ苦悩があることを

垣間見た思いがした。それは私にとって、とても新鮮で貴重な体験であった。

制作現場を見ると、若い仏師たちの強い心意気が伝わってきた。素材となる木は、環境の中で常に水分と共に生きていく。基本的に、大仏が奉納される場所に冷暖房施設はないので、制作は、春夏秋冬を通して自然な環境で行われている。経験豊かな仏



巨大仏の口元を彫る明慶氏と見つめる伊藤氏

師は、カンナで木を削りながら天気予報ができるそうだ。カンナの滑りで、空気中の水蒸気の量が判定できるのだ。

天井の高い大工房の裏手には、別棟の工房があり、そこには個人の作業場があった。仕切りのない大部屋には、個人の作業ブースが適度な間隔と変化をもたせて組み込まれていた。個性豊かな仏

師がそれぞれの想いを乗せて制作に打ち込んでおられ、創作現場には緊張感がピーンと張り詰めていた。奥の展示室で、明慶さんの仏像彫刻にまつわる様々なエピソードを伺った。

工房から京都市内に戻り、コロナ禍で休館中の明慶仏像彫刻美術館を、特別に見学させて頂いた。美術館は、4つの部屋に分かれていて、150体以上の選りすぐりの仏像が、それぞれのサイズと特徴を基準に、適度な照明の下で展示されていた。一体ごとに、明慶さんの入念な説明を伺うことにより、更に、大仏師の深層に迫ることが出来た。一本の木から仏像を彫る時には、木の中に仏の姿が見えるので、スケッチはせず、像にとって余分なところを木から削り取る作業をひたすら続ける。すると、木そのものが、仏像の形に変化してゆくのだそうだ。実際の作品を前に、その話を聞くと、それは正に神業の世界と感ぜられた。

AI技術の話では、「AIは、明慶作品のコピーを作ることはできるだろう。しかし、私は常に前に進んでいるので、AIが私を追い抜くことはできない」と、クリエイ

ターとしての自負と誇りを示された。

明慶さんは、明るい照明の下で観音菩薩像を手に取り、角度を変えて観ると、像が、あたかも生身の人間のように微笑んだり、無視したり、拒絶するように振る舞うと言われた。確かに、私は、ある角度で、像が微笑んだように感じた。童地蔵を懐へ抱きかかえると、喜びの微笑みを送ってくれた。思わず心は和む。この心が、明慶ワールドの真髓であろう。

明慶さんは、文藝春秋2023年5月号のグラビヤ「日本の顔」に登場された。正に時の人であり、「宇宙生命哲学」が提唱する「人生とは、素敵な地球人になる終わりのない練習である」を、自然体で実行されている人生の達人とお見受けした。

翌日、廣隆寺で日本の国宝第一号である弥勒菩薩と対面したが、照明が暗く、間近に近寄ることもできないので、かの有名な微笑みを実感することは叶わなかった。明慶仏像彫刻美術館は、我々夫婦にとって、京都へ行った時、必ず立ち寄るべきホットスポットになった。美術館の再開が待たれる。

罵詈雑言、誹謗中傷も

法学者 谷口 真由美

2023年4月に行なわれた大阪府知事選挙において、人生で初めて「候補者」になるという経験をした。本稿は、その一端を生々しい記憶のままにただ書き連ねるものであり、生傷が癒えぬままの状態、かつ、一人称の文章を

掲出し、ひとさまのお目を汚すことをまずお詫びしたい。

人生において、これまで何度も「候補者」となるお誘いはあった。選挙のたびに、どこからともなくお声がかかることについても、もはや風物詩のように捉えていたところもある。私自身は、政治の内側にいくことで見えなくなることもあるだろうということから、ただしく批判する外側でありたいという思いがあり、立候補はしないとたくな言い続けてきた。そのため、政治とも政党とも政治家とも、一定の距離を置いて生きてきた。過去の著作においても、政治家になるつもりは一ミリも無いと記しており、その気持ちに偽りはなかった。

ただ、今回、自分のモチ

性候補2人の闘い

ダブル選挙を終えて

しく 悔いなく



す会は大盛況だった



人にインタビューした



はどうだったか。お二人は息学事務所も共同で闘った（開

「大阪ダブル選挙」が、強風ふきすさぶ維新の風のなか、誰ひとりとして、この二つに立候補をする様子が、昨年末にはなかったからである。各方面から、いろんなタイミングでお声がかかるたびに、「じゃあ、あなたが立候補すればいいのではないか?」、「なぜ、正面から政治家は誰もたたかわないのか?」という疑問がわいた。誰が考えても、どう考えても、火中の栗を拾いにいくことはわかってい。キャリアに瑕がついても、職を失うことになっても、それでも出る人はいないのか：絶望に似た気持ちを抱いていたときに、畏友である井戸まさえさん（元衆議院議員）からこう言われた。「こんなにいるんな人に求められているのに、被選挙権を行使しない理由は何? やりたくても、誰もがその場に立てるわけではないんだよ。私はずっと伴走するから、考えて」と。グラツときた。私がかたくなに立候補をしない理由す

ら、選挙が「成立」していることが前提ではないのかと。そんなことを自問する毎日なかで、北野たえこさんが市長選を引き受けるという検討をしているという知らせを関係者から受けた。大阪において、真つ当な保守であり良心ともいえる北野さんとなら、出ても良いと思えた。井戸さんの伴走で、北野さんのパートナー。女性の選挙の歴史が変わるかもしれない、維新政治に爪痕が残せるかもしれないと思えた。北野さんは、長年にわたり籍を置いていた自民党を離党して、私と同じ「アップデートおさか」からの立候補となった。女性ふたりで、知事と政令市の選挙ができたことにより、女性候補者を支える周囲の人たちにも考えてもらわれないといけない視点を提示できたと思っている。

もちろん、立候補に至るまでには、これまでの仕事のキャンセル、家族の説得など、他にも大きなハードルがあった。そして、メディアに出るのとはワケが違う罵詈雑言、誹謗中傷、名誉毀損といえるものも経験した。

そのうちの一つだけ、あえてここに記しておく。それは、私の立候補を「あと出しジャンケン」、「非維新の票を割る愚行」、「維新から非維新の票を割るためにお金をもらったのだろう」、「（無所属共産党系）たつみコータローさんと一本化せよ」という言説である。今後、どのような選挙であったとしても（野党）共闘を考える人たちがいるなら、考えたほうが良い。その一本化は、本当に実を結ぶのか。一本化の実が結ぶほど、「あなた」は自分の選挙として主体的に動くのか。一本化は「誰」にするのか。一本化の結果、市民の選挙をせざるを得ることにならないのか。そして、勝てるための戦略と戦術は立ててあり、それに実現可能性があるのか。

そんなことも、立候補しないと考えることができなかつた視点である。新しい視点ができ、意味のある経験となったことから、私自身には一片の悔いもない。

「火中の栗」拾った女

大阪府知事・大阪市長

いさぎよく りり



知事・市長候補の2人を励ま



告示前、本誌は北野事務所で2



維新に対して画期的な保革共闘の試み
があっており、意思の疎通もよく、選
票の夜、会見した2人)

とも僅差ながら、大阪市の廃止を阻止できた。

大阪府知事選・市長選まで2カ月を切る2023年1月末日。

広域一元化条例で、次々と大阪市の権限・財源が失われていった。この2年余は、後進育成をする心に決め、女性議員発掘のプロジェクトを立ち上げ、活動が順調に進んでいる最中であつた。自民党大阪府連の女性局長という立場も活用しながら、広報誌作成・街宣キャラバン活動などをし、市長候補勧誘や24行政区の候補者調整を現幹事長と共に奔走していた。

2月1日。明け方から私のマンション1階にマスコミが鈴なりにカメラを構えている。まだ発表には早い……

しかし対応を迫られ、その日から私は「光の中」での毎日が始まる。思い返せば、最後はそうなるのではという覚悟が徐々に固まりつつあつたのではないかと思う。

しかし、相談・整理・決定するべきことがある中での報道先行。家族・後援会・自民党府連・市会議員団・自民党淀川支部・等々。すべて時間との戦いだつたが、出馬記者会見の2月8日に丁寧に対応しながらも、それ以上にしかるべき手続きを終えることに腐心し、2月26日、自民党を離党。3月1日政策発表パーティをやる頃には、すっかり吹っ切れたような気持ちで臨んでいた。

その間にも、同じ政治団体「アップデートおおさか」から一緒に出馬する大阪府知事候補の谷口真由美さんと様々なラウンドテーブルをこなし、最後の議員としての予算委員会、本会議もこなしながら、選挙戦の政策を固め各種製作

物も「アップデートおおさか」のスタッフと固めて行つた。

知事選スタート。テレビ討論会は合計3回の開催。かたや市長選は3回団体主催の討論会だつたが、クロージドで与えられたテーマへの意見発表のみ。特に地元淀川区での討論会は「カジノ是非か」だつただけに、相手候補と討論しないままモヤモヤ感が払しょくできなかつた。選挙戦は2週間。候補者移動用カーもスケジュール管理する随員も付いてくれたので、あとは健康管理とモチベーションを維持し、ギアをあげていくことに徹した。

以前5回戦つた統一地方選挙は9日間の期間なので、プラス5日間への不安はあつたが、24区を分刻みで移動、様々なシチュエーションでの演説やイベントが苦痛ではなかつた。SNSの罵詈雑言なども次第に気にならなくなつた。ボランティアの方々も増え、

さまざまな団体の寄り合い所帯とはいえ、次第にチームに一体感も生まれ、私はたぶん楽しくイキイキ活動していったと思う。実際、そうだったのだ。

結果はご存じの通り。残念な気持ちはあるが、やり切つたことに一片の悔いもなく気持ちは晴れやかである。むしろ、肩を落としたスタッフを感謝をこめ力づけた。立候補前後で悩んで体重を6キロ以上落とし、眠れぬ日々を過ごしたことが遠い昔の事のようにだ。覚悟を決め行動をし、人知を尽くせば、このような境地に至るのかと初めて知つた。

大阪のことは心配だが、ここまで投票率が悪く、完敗すると、これは明らかに民意である。今後いかなる未来が待っているかは分からない。それも含め、民意である。1週間たたないうちに大阪IRの国認定がなされたことも、財界からの疑問の声も想定内。すべては後進に託すしかない。終始一貫、「自民党に戻ること、政界に戻ることもありません」と言い続けたことに変わりはない。

最後の候補者勧誘が不調に終わったとき、私の決意が固まった。私は夫とふたり家族。両親4人をもに見送り、2人の娘たちも新しい家庭を築き幸せに暮らしている。住民投票を2度戦い2度

前大阪市会議員 北野 たえこ

覚悟決め人知を尽くした

子育て議員の現代版選挙法

「ないないない選挙」

立憲民主党 江東区議会議員 酒井 なつみ

4月23日投票の江東区議会議員選挙で、3位の8067票をいただき、2期目の再選を致しました。前回は4622票でしたので、得票数を大きく伸ばすことができませんでした。自分でも大変驚いていますが、これまでの活動の積み重ねやSNSでの情報発信、そして新しい選挙手法もご支持をいただいたものと考えています。

看護師・助産師としての12年間の医療現場経験、がんの闘病、不妊治療、夫しか頼れる人のいない孤独な子育てを経験し、2019年に初当選しました。立憲民主党に所属しているものの、組織の後ろ盾はありません。町会のイベント（お祭りや忘新年会など）に呼んでいただくことはなく、特定の方々との深いつながりもありません。ボランティアのみの小さな手作り選

挙を2回の選挙で展開してきました。前回に引き続き、選挙カーや選挙事務所、電話掛けを行わない「ないないない選挙」です。

1つ目は、NO選挙カーで



酒井なつみ議員

す。やっと寝ついたわが子が起きてしまった経験から、選挙カーを使いません（45万円の補助金の税金も無駄にしません）。私の場合、駅前、公園・スーパー前、交差点など

住宅の少ない各所で30分程度の演説をします。区民と対話したり、自分の言葉で政策について訴えができることがメリットです。都心部では、選挙カーのない選挙が当たり前になれば良いなあと思っています。

2つ目は、選挙事務所を設けていないことです。日頃から多忙な女性の支持者が多いため、人手を確保することが難しいためです。時間を取らせてしまう選対会議も行

いません。日頃から発信を続けているSNSで、ボランティアを募集したり、情報発信を行うことで、コミュニケーションを丁寧に行ってきた

した。選挙期間中、日々のスケジュールを公開することで応援や、演説を聞きに来てくださった方もいます。選挙事務所は多くの資金が必要なため、設けないことで他の戦略

に予算を割くことも一案だと考えています。

3つ目は、投票依頼の電話かけは行いません。私の活動では電話番号を頂く機会がないからです。その代わり、まちなかでの活動やSNSを用いて投票をお願いしました。

子育て議員としての選挙スケジュールについては、娘がお世話になっている保育園が7時30分開所なので活動は7時45分開始です。また、20時に子供を寝かせることにしており日頃から18時以降は基本的に活動ができません。選挙中も17時45分に演説を終了し18時に解散でした。家族の体調管理も必要で、早朝から深夜に及ぶマッチョな選挙はできません。議員活動も同様ですが、家族のケアと自分の体力に合わせた選挙スケジュールとしました。

それでは何に力を入れるか？私には「これま



最後の演説は娘にも聞いてもらいました

での積み重ね」と情報発信に力を入れました。入念な準備と調査による政策提言、SNSでの情報発信、区民相談対応、議会レポートの発行とポスティング（4年間で14号まで発行済み）、駅での定期的な挨拶などです。政治の質を高めることに力を入れ、多くの政策を提言、実現をしてきました。私は看護師・助産師なのでその専門性を発揮して活動ができたと思っています。さいごに、政治家の持つ力は大きく、その大きさを自覚しながら、生活者の困りごとに寄り添い、公共の福祉について考えられる方が議会で活躍してくれると私も嬉しいです。

編集部：ご自分の気持ちを素直に行動と政策に反映する芯のしっかりした、それでいて政治家らしくない女性。家族と政治家の両方を大事にする姿勢には感銘します。女性の政界進出を阻むハンディを逆手にとった見事な選挙活動でした。

あ
る
憂
鬱

北里大学名誉教授 馬淵 清資

地表を埋め尽くすが繁栄と言えるかどうか判らないけれど、とにかく人類は繁栄しています。しかし、地球の歴史に名を残すほどの繁栄でしょうか。そうは思えません。仮に1万年後、つまり気が遠くなるほど先までこの繁栄が続いたとしましょう。それでも、たぶんその後、数億年で人類の痕跡は跡形もなくなると思います。たとえば人工の材料は、すべて風化します。自動車や電車のような金属、プラスチック製品はもろること、コンクリートの建築物でも。その証拠に過去の文明の残した遺跡は、たった数千年で、すでに崩壊の跡を示しています。また、何か残ったとしても、肝腎のヒトの骨格が小さいので、それを作った生物が特定できるかは、怪しいものです。せめて馬の骨くらいの大きさがあれば、どこの馬の骨かわからな

いまでも残るでしょうけれど。過去の生物の繁栄の跡が残っているのだから、我々だって少しはという反論はあるでしょう。確かに恐竜など立派な骨格を残しています。しかし、彼らは、大きいだけでなく、1億年以上も繁栄を続けていたのです。それは、我々人類の歴史400万年とは比較にならないくらい長い。地球の歴史に名を残すのはたいへんなことなのです。それで、その恐竜ですけれ



2014年イグ・ノーベル賞授賞式の真淵清資氏

ど、「なぜ絶滅したのか」が気になるわけです。繁栄から滅亡のシナリオは、我々の行末と関係がありそうですから。これについて、従来、いろいろな仮説が流布されてきました。たとえば、恐竜は愚鈍で適応力がないために、環境の変化に対応できなくて滅んだとか。ほ乳類に卵を盗まれたとか。しかし、そんなことで絶滅するのなら長い間栄えるはずがない、むしろ、恐竜はかなり賢かったと、最近では考えられています。それをトロオドン（対な脳重量比（対体重比）や、カモノハシ竜の子育ての跡が証明されています。そして、賢いものだから生じつかなことでは滅びないという前提から、巨大隕石衝突などの強力な天変地異仮説が、持ち出されて、現在では、最も有力とされています。ただし、この仮説に對しても、隕石衝突から絶滅するまでの数百万年は、長過

ぎるといった批判があります。そこで私の仮説。「恐竜は、賢くなり過ぎたため滅んだ」であります。まず、知能の発達にはそれほど時間はかかりません。サルからヒトの場合、数百万年でした。数億年という生物進化の時間尺度と比べると、これは一瞬に過ぎません。また、知能動物が地球環境を著しく変化させることも、現在の我々が証明しつつあります。その変化が、自分達を含む多くの生物の存続を脅かすのに、数百万年というのはいい線です。そして、知能動物の痕跡を消すのに、絶滅からの6500万年は、十分な時間です。この私の説には、否定的証拠がないかわりに、積極的証拠はありません。特筆できるのは、恐竜と同時期に多数の生物種が滅んだ大絶滅の原因が説明できる点です。



「知性」の業を笑い飛ばす「感性」の燦めき

積です。陸地の全面積は1億5000万平方キロメートルで、その内3分の1は、すでに砂漠になっています。ということは、これから1800年ほどで、残りの陸地がすべて砂漠になるという計算になります。それは、すべての生物に破滅をもたらすでしょう。残念ながら、我々人類が、知能を振りかざして、地球環境から効率よく資源を搾取したことが、その原因をなしていることは、明白です。もし、知能を持つと滅ぶというのならば、我々はどうすればよいか。これはもう恐竜の時代から生き残っているゴキブリにあやかって、知能を捨てるしかありません。しかし、残念ながらバカになれるほど賢くはないようです。こんなこと考えられるのは人間だけというのが、いささかの救いでしょうか。

新外交イニシアティブ(NPO)の提言(中)

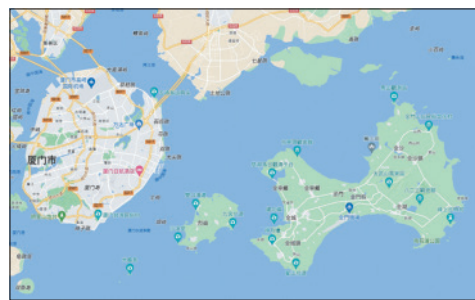
台湾を巡る

「戦争を回避せよ」

要約文責・当誌

台湾有事にいかに対処するかは、戦争に巻き込まれるか、日米同盟を破綻させるかという究極の選択を迫る難題である。それゆえ、台湾有事を回避するために、今から、展望を持った外交を展開しておかなければならない。台湾有事は、避けられない定められた運命ではない。日本有事に発展するかどうか、日本の選択にかかっている。回避する道のりがいかに困難であったとしても、耐えがたい戦争を受け入れる困難さは外交による問題解決の困難を上回る。政治は、最後まで外交を諦めてはならない。

例えば、米国に対しては、過度の対立姿勢をいさめるべく、米軍の日本からの直接出撃が事前協議の対象であることをテコとして、台湾有事には必ずしも「YES」ではないことを伝えることができない。台湾に対しては、民間レベルの交流を維持しながら、過度な分離独立の姿勢をとらないよう説得することができない。中国の台湾への安易な武力行使に対しては、国際的な反発が同国を窮地に追い込むことを論じ、軍事面で日本は米国を支援せざるを得ない立場にあることを伝えながら、他方で台湾の一方的な独立の動きは支持しないことを明確に示すことで、自省を促めることができる。また、日本は立場を共にする韓国や東南アジア諸国連合(ASEAN)を含む多くの東アジア諸国と連携して、戦争を避けなければならぬという国際世論を



右側の島は台湾の金門島。
左側の島の都市は中国のアモイ市

強固にすることもできる。

今日、台湾をめぐる米中の対立は双方が判断を誤れば取り返しのつかない戦争に至るおそれがある。米軍の前線拠点である日本が米国に加担すれば、中国との戦争に巻き込まれる。一方、米国に加担せず、中立の姿勢をとれば日米同盟は崩壊する。台湾有事にいかに対処するかは、戦争に巻き込まれるか、日米同盟を破綻させるかという究極の選択を迫る難題である。

台湾を次のウクライナにしないために

ロシアが米国によるウクライナへの大規模な武器支援を予測できていれば、侵攻はな

かったかもしれない。だがそれは後になって初めてわかる予測困難なことである。他方、中国は、これを予測できる。それゆえ、台湾への武力行使には慎重になるとともに、米国の武器支援に対抗する手段を周到に準備するだろう。昨年8月の台湾を包囲する軍事演習は、米国からの支援を阻止する能力を示すものであった。

他方、「台湾が中国の一部である」という中国の主張は、米中・日中の国交樹立時の共同声明にも示され、これまで、国際的に否定されたことはなかった。問題は、中国が武力による統一に踏み切るかどうかということにある。

中国は、「外国の干渉や台湾独立勢力に対する武力行使を放棄しない」と言っている。米国は、「中国の武力行使を容認せず、台湾防衛を支援する」との立場である。台湾の立場は、「中国本土との統一を望まないが、戦争につながる独立宣言をしようとは思わない」というところに集約できるだろう。三者は、それぞれ異なった思惑を持ちつ

つも、「現状維持」を最低限の目標としている。同時に、いずれの当事者も、戦争を望んでいない。

他方、2019年の中国による香港弾圧を経た結果、台湾では「一国二制度」への共感が失われ、分離を志向する傾向が強まっている。米国も、「二つの中国」政策を維持すると言いつつ、「台湾関係法」による台湾防衛を重視する傾向を強め、かつてのようにはしない。こうした米台の姿勢が、中国の不満を煽っている。こうして、中台の思惑の違いが明白となり、そこにイデオロギーによる米中の覇権争いが重なって、政治的な妥協を難しくし、戦争の要因を高めている。

日本は台中戦争となれば最も影響を受ける国であり、そして、日本は米中双方と緊密な関係があり、双方と対話できる立場にあるからである。その日本が、台湾有事の回避のために何もしないという選択肢はない。だが、そのための日本独自の外交戦略が見えないことが問題である。

ある台湾人の米中台関係への意見

在台北市工場経営者 久芳太

当誌の知人ルートで、普通の台湾人実務家に依頼して台中問題への寄稿をお願いした。小誌も驚く意外な内容であるが、少なくともこのような意見をもつ台湾人もかなりいるのだろう。(和訳は在住日本国籍中国人)

台湾の独立を主張する民進党が政権を握った2016年以降、台湾と中国との関係は徐々に悪化しはじめ、2022年8月にナンシー・ペロシ下院議長の台湾訪問をきっかけに中国政府の反発が強まりました。台湾海峡の中央線を越えて飛行機や軍艦が台湾を武力威嚇し、台湾の人々の不安や近隣諸国の緊張を引き起こしています。これにもない、日本も中国の軍事力拡大に対処するために軍事費を増やしています。今日のアジア全体の摩擦はすべて米国によって引き起こされていると思います。



旧台湾総督府にして現在は台湾總統府

力を背景に自国の利益を優先し、世界各地で継続的に紛争を引き起こし、武器を輸出

ています。世界の平和を最も望んでいない国は米国です。世界が平和である場合、米国の武器に出口はありません。米国の共和党と民主党のどちらも軍事産業によって支えられています。どちらの党が権力を握っても、議会と大統領を操っているのは依然として軍事産業の財閥です。金融手段を使用して、さまざまな国の経済的成果を奪い取り、最初に外貨を米ドルに対して上昇させたり、金利を引き上げて米ドルを米国に戻したりしました。日本は厳然たる例です。

その後、台湾、韓国、そして今では中国を標的にしています。1979年、米国はソ連と対峙し、中国との国交を樹立するために台湾との国交を断絶、同時にソ連を制裁して崩壊に至るまで。中国はアメリカから最恵国待遇を受けていたのが、台湾、香港、日本及び韓国の産業を誘致し、相次いで中国に投資してきました。加えて海外に留学した人材が相次いで中国に帰国して能力を発揮、中国の経済は急速に成長してきました。40年余り経った現在中国のGDP

P及び科学技術のレベルは米国に追いつくことができ、これにより米国は落ち着きを失っています。米国が中国に追い抜かれないようにするために、中国を抑圧し始めています。

最近、台湾の総統は友好国を訪問し、米国でトランプジットを利用してマツカーシー新任下院議長と会談、中国の怒りを引き起こし、中国側は台湾周辺海域で2度目の3日間の軍事演習を行っていません。今後の中国と台湾の動向は、米国と中国の関係が緩和されるかどうかで決まると思っています。

現在もアメリカは依然として台湾に中国との対決を強要し、中国を怒らせ続けています。同時に台湾に時代遅れの武器を大量に提供し、先進的な武器を提供していません。さらに恥知らずなことは、台湾が他の国の3倍の価格で武器を購入していることです。米国は中国のベースラインに挑戦し続けています。中国の国力を消耗させるために軍隊を派遣し台湾を攻撃させようと望んでいます。現在のウクライナとロシア

の間の戦争のように、米国はウクライナとロシアの間の紛争を利用してこの戦争を促進させました。そしてロシアの6300億ドルの外国為替を損失し、ロシア富裕層の米国内における財産を没収、数十万人のウクライナ人の命を犠牲、1000万人が家を追われています。次のステップは、外貨準備高が3兆ドル余り、米国の国債の1兆ドルを超え中国を狙っています。同時に、台湾の外貨準備高が6000億ドルを超えることも切望しています。

もし中国が台湾に対して戦争を開始、これらのドルはネットボトムで収集することができますが、犠牲になるのは台湾の人々です、台湾は四方が海に面しており戦争が始まれば10日しか抵抗できません。

調査によると、台湾の人々の60%は、台湾が中国に抵抗するのを助けるために米国が軍隊を派遣するとは信じていませんが、米国の7%の人しか、米国政府が軍隊を派遣して台湾を支援することを支持していません。

(次号へ続く)

戦争という嵐を呼ぶ

Jアラートを

やめさせよう

東京都 三田 栄考



4月13日早朝、テレビは突然番組を中断させてJアラートが鳴り出した。北朝鮮からミサイルが発射された！北海道に落ちるから逃げて下さい！札幌では交通機関もストップ。でもいくら経っても飛んでくるはずのミサイルがどこにも着弾しない。後刻、Jアラートは鳴り出した時には既にミサイルを見失ったと知らされた。国会では「もっと正確に」と野党が追及したとか。違うでしょう「Jアラートで戦争でもないのに、まるで原爆攻撃に晒されたように反応すれば北朝鮮の更なる挑発を呼び、遂には双方のエスカレートが戦争を招くから止めるべきだ」と国民を諭すべきなのに。北朝鮮

は危険だの大合唱、Jアラートは内外の危機感を煽り、軍事一辺倒に戦争を招く危険性を指摘する者はいない。もう戦前の雰囲気似てきた。猿でもわかるとは言わないが、私のような全く素人の門

外漢でも分かることではないか！①北朝鮮が突然1〜数発のミサイルを撃ち込んで戦争を始めることはあり得ない。(確かに金正恩氏は何をしでかすか分からん男だ。が、気でも狂わぬ限りは戦争を始めるならもつと準備をするものだ。ロシアのウクライナ侵攻を西側は充分予知できていた)②しかもミサイルに原爆はおろか爆弾も積んでいないのに、射程ミスで空殻が落ちるかも知れないとの警報か？そんな為に日本が右往左往するのは情けない(金正恩氏にすれば愉快だからもつと脅かしたくなるだけ)。第一、ミサイルに核を積んでいたら逃げたつて逃げようがないではないか。③ロシアの1発のミサイルにウクライナ全土がJアラートを発出していますか。そんな確率の低い危険に机の下に潜り込めというなら、交通事故が心配だから車を全部廃車すべきと喧伝すべきだ。④北朝鮮が日本に戦争を仕掛けるメリット・理由は現段階では全くない。そんなことをすると金正恩体制が揺るぎかねないことは誰でも分かる。(裸の王様だから何を

するか分からんと言うなら、ミサイル一発で金正恩体制を倒せるなら結構なことだが、それは韓国と米国の仕事、日本は高見の見物を決め込めば良い)裸の王様なら、こちらとはそれに合わせた大人の対応をするしかない。牙には牙ではこつちが大怪我をする。ミサイルや核という危険な玩具を弄ぶ独裁者は国際社会に招き入れて融和的教育をするしかない。

戦争したい

好戦勢力に乗せられるな

ウクライナ侵攻や台中問題で彼らは存在感を高め、チャンスと大喜びだ。戦争を煽り軍備増強に走る口実になっている。私の父は軍部に抵抗できず狩り出され日本軍律に背いて捕虜になって帰国できた。戦争勢力、軍部、自民党政権、マスコミなどは意識して煽る者や、気づかずに愚かにも手を貸している者もいる。空振り三振は良いが、見逃しの三振はダメと称して、Jアラートが正当化されている。昭和6年の柳条湖事件は関東軍が戦争を仕掛けるために裏で自ら爆弾を仕掛けてお

きながら、中国側がやったから反撃すると日中戦争に突っ込んで行ったのだ。対決は互いに自らの言い分を相手に無理して吞ませようとすることです。エスカレートする。朝鮮を植民地化しておきながら国交すら回復させられない、反省が足りない日本国。日中戦争の被害の賠償を放棄した中国に政治的にはまだ打ち解けない日本の政治。意識ある者が行動しないことには廊下の奥に立っている戦争がこちらにやって来るぞ。それを防ぐことにあらゆる手段を尽くさねばならない。兵器が進んだ現代、本気で核戦争をされたら逃げることは不可能。露中北と対峙するのは非常に厄介なことだ。彼らを抹殺できないから、冷静に軍事は縮小で平和外交を徹底的に行うべきだ。林外務大臣の3年半ぶりの訪中もあって、3月31日に日中の軍部のホットラインの開設が合意された。偶発戦争を避ける大きな一歩なのに報道の扱いは小さかった。平和外交の方が遥かに軍事外交より税金がかからない。あなたにも、より一歩動いてもらいたい。

今回は、①羊のお話、②マイナンバー制度のお話、③某高市氏のお話の三部作でチャンとした結論をお届けします。

まずは、前号でお話しいたしました家畜化の続きです。

①桜舞い散る陽気な昼下がり、屠場に連行される羊の群れ、羊の首には番号を刻した首輪が見えます。某羊が、その現状と首輪に憤り、必死に首輪を外そうと抵抗。その抵抗を試みる某羊に向かって「ご主人様が、せっかく取り付けて下さった綺麗な首輪、秩序を乱すような行為をなさらないでください。秩序を乱して私たちの命を危険にさらすような真似はお止めください」と学者然とした羊が、もの腰柔らかに言う。人間界では、このような羊を御用羊とも言うのでしょうか？一見、言葉優しく知的そうに見えるますが、その中身は、我が身の出世しか念頭にないエゴイスト。皆さん！御用学羊には、ご用心を！

屠場の扉が眼前に迫った今、教育とはこの従順性を備えさせる為の訓練なのかと、たいへん納得。

②マイナンバーの事です。

マイナンバー申請時のお金はどこから出てるの？



「市民参加条例」推進委員会

代表 松井 学

今、マイナンバー取得の申請をすれば、漏れなく2万円のお得ポイントが付いてくる、皆さんお早めに取得申請をお願いします。ヤンヤンヤンヤンにテレビ報道……ウムウムウム？でも、ポイントの2万円というお金、いったい何処から捻出されているの？一体、誰のお金なの？このような疑問が頭の中をよぎりませんでしたか？

そりゃもちろん私たち国民の税金から捻出されたお金ですよ！

な〜んじゃそれ！撒餌（まきえ）でおびき寄せる魚の群れ、その撒餌に釣り上げられる魚の挿身（すりみ）を使うような図式じゃないですか。

これがマイナンバーポイントの正体！国民を馬鹿にし過ぎ！汗水垂らして得た労働の対価、そこから所得税だの、住民税だの消費税だのと幾重にも税金をフンダクル。例えば所得税を払った後の貯金、その貯金に付いたわずかな利息に税金、車にガソリンを給油すれば、ガソリン税の上に消費税、二重にも三重にも、税金をふんだくる。

そのうえ個人の考えや思考、

病歴、タンス預金までも効率よく監視する追跡用の刻印付き首輪を貴方の首に嵌（はめ）る。このようなシステム、これがマイナンバー制度なんですよ。このマイナンバー制度の前では、憲法で保障される基本的人権なんてあったもんじゃありません、プライバシーなんてあったもんじゃありません。

今の世襲政治、殿様政治では尚更のことです。メチャ有害危険です。

この羊の群れから、国会にふと目を転じると、官僚が作成した行政文書（平成27年2月13日作成、高市大臣レクと題する）に公文書を某高市早苗大臣は、これは捏造された文書だと、おっしゃっている。のである。何やら訳の解らないことをおっしゃっている。元来、公文書とは、真正である事が前提とされる行政記録である。後世の国民の検証に



高市早苗経済安全保障担当大臣

供するために残される大切な記録に国民の資産である。

今、流行の言葉で言えば大切なエビデンスなのである。もし、この大切なエビデンスの真正さが損なわれるのなら、民主主義政治の基礎そのものが崩れて成り立たない。それほど大切な国民の資産なのだ。その公文書を某高市早苗氏は、ねつ造された文書だと吠えている。

刑法的に言えば、作成権限者がその中身を偽ったり作り替えたりしたら、変造の罪を犯したということになる。公務員がこれをやらかしたと、時の大臣がそのように吠えている。権力者とは、黒でも白と言いたい張る。民主主義がチャ〜ンと機能している国、国民が家畜でも羊でもない国では、このような黒を白と言う主張はまかり通りません。ところが前年来、森加計桜と続き、今度はその子分が公文書を捏造文書だと吠え、そのうえ国の舵取りとして居座り続けているのである。

やはりこの国では国民はライブストック、家畜なのでしようか？

（大阪府藤井寺市）

日本国憲法の

新たな源流の発見

『平和憲法をつくった男』

鈴木義男を上梓して

東北学院大学名誉教授

仁昌寺 正一

この度、『平和憲法をつくった男 鈴木義男』（筑摩選書、2023年1月）を上梓した。本書の大きな特徴は、日本国憲法の重要な条文の成立に関して、鈴木義男（1894～1963）という人物の思想や行動が顕著に反映されており、彼の存在なくしては現憲法が作られなかったことを明らかにした点である。それは、従来の制憲過程や憲法の解釈に一石を投ずるものであった。

それが可能になったのは、1946年7月25日～8月20日まで13回にわたって非公開で行われた帝国憲法改正案小委員会（吉田小委員会）の会速記録が、約50年後の1995年に公開されたからである。そ

の後、それに関する分析・研究が進化した結果、委員会において日本国憲法の内容が実質的に審議・決定されていたこと、そして当委員会において鈴木氏の発言が、委員長の手



平和憲法をつくった男（鈴木義男氏）

理の1つの平和主義に関していえば、その淵源については諸説紛々の状態であった。ところが、この小委員会の速記録を読むと、鈴木氏の発言を機に、党派を超えた自由かつ活発な議論の結果、政府原案の九条の冒頭に「日本国民は正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求」といういわゆる平和条項の挿入を提案するなど、決定的ともいえる大きな役割を担っていたことが明らかとなった。^{※1}

田均の次に多かったことが明らかとなり、新憲法の作成過程における鈴木氏の役割が極めて大きかったことが判明した。例えば、日本国憲法の三原

原案一二条の幸福追求権に生存権が含まれていると解釈できると主張し、それが優勢を占めるにいたる。しかし、それを聞いていた鈴木氏が「生存権は最も重要な人権です。それを採用するにふさわしいのが20世紀の憲法としての日本国憲法です」という発言で議論の潮目が変わり、1つの条文として生存権規定が成立することになったのである。^{※2}

鈴木氏の発言があつてこそ条文として挿入されたのである。従来は、社会党を代表して、森戸辰男が提案の趣旨説明を行ったことから、専ら森戸の貢献の賜物といった説が主流であった。ところが、この小委員会の速記録をみると、委員長の芦田をはじめとする保守派の人々が政府

期にかけて身につけたキリスト教人道主義があつたこと、二高から東京大学助手の任期終了までの間に、特に吉野作造や美濃部達吉のもとで大正デモクラシーの思想を学んだこと、欧米留学中に国際協調による平和の実現と戦争違法化の思想を学んだこと、帰国後、東北大学教授として当時の軍国主義教育に敢然と立ち向かったこと、弁護士時代には「人権尊重の立場に立ち、不当の迫害に対してその被害者を守る」という意識から弁護士を引きうけた（平和人物大事典）ことなどが挙げられる。

現行憲法には採用されなかったとはいえ、政府原案に新たに第一条を設けて国民主権を明示させること、高等教育の無償化を条文に明記し、政府の責務としてそれを実現させることなども強く主張していた。当時の彼のまなざしの先には、世界中に戦争のない平和な世の中で暮らす私たち「国民」「日本人」の姿が見えていたはずである。鈴木をはじめ、当時の日本人たちが何を思い、何を托したのかは、それを今一度考える時期にきているのかもしれない。

※1 鈴木義男と平和の関わりについては、油井大三郎氏が本紙2022年秋・69号に寄せた論考を参照されたい。
 ※2 このことについては、本紙2021年冬・67号および2022年春・68号において清水まり子氏が詳しく述べているため、そちらを参照されたい。

松平春嶽(上)

政権への可能性

東京 阿部 敏夫



幕末の越前福井藩主 松平春嶽

松平春嶽の名声は本人の力量は、もとより家臣の登用において一層その輝きを増した。明治維新後の政権を担当させたい人材でもあった。当時四賢侯の一人として誰しもがその知性に期待していたのに。

とりわけ読書家の春嶽が正確を期して自身の体験、事実をとりあげて10年もの歳月をかけて後世に残る『逸事史捕』を書き残す。資料によれば「福井市立郷土歴史博物館」で現在でも眼にすること

が出来る。

私が春嶽に興味を覚えたのは彼の知性、教養を支えた読書好きにある。ましてや和歌にも通じていたとなれば、なおのことである。

春嶽は号である。松平慶永より春嶽の方が親しみ易い。

1828年8月10日(文政11年)の誕生。1890年(明治23年)61歳で死没。幕末から明治の中期まで日本国政権を伺う地位にいた。

幼名は徳川錦之丞。養子縁組で越前松平家を継ぎ11歳で

福井藩主に就任。

その英才ぶりは徳川慶喜をも上廻ったであろうが、時の大老井伊直弼の強腕を超えることは出来ず、家臣の知性、橋本左内の能力を生かし切れなかった。

政治の世界は現在でも全く一緒だ。出身派閥、その時の事件、問題点が才能を凌駕して着地点を探す。

その意味で上杉米沢藩を再建した上杉鷹山を思い起こす。鷹山が頼りにした改革派の家臣、竹俣正綱は道なかばで失脚する。儒学者細井平洲を江戸から招き財政再建に成功する。

同じように春嶽は熊本藩士で政治家でもあり思想家として高名な横井小楠を呼ぶ。

熊本藩では成果を挙げられなかったが、幕末に影響を与えた最大の思想家の一人であろう。それは行動における西郷隆盛、思想家としての横井小楠は時代を代表して未だに語りつがれる。例えば会津

における長州、薩摩の印象など維新150年たっても変わらない。それは子孫に教え続けるからだ。

同じ意味で吉田松陰は過大

評価され過ぎなのではないか。

当然長州出身者は猛反発するだろうが、テロリストの雰囲気が強すぎるのではないのか。国内での評価が、これだけ違うのだから日本国が戦争した外国が一朝一夕に心から和解できないのは当然である。

「南州翁遺訓」で敵方を称賛した庄内藩などは希な例と言つてよい。

さて横井小楠だが「国是十二条」を書き龍馬が作ったと言われる「船中八策」も、それを下敷きにしたと言われている。

政策家であると共に国家のことも考えていたのだ。

藤田東湖、川路聖謨、吉田松陰、由利公正、橋本左内等江戸時代末期の知識人に絶大な支持を得ていたのである。

橋本左内の活躍は大阪の緒方洪庵の適塾で福沢諭吉と一緒に学んだ時から約束されたようなものだ。との説もある

が適塾時代には在籍の相違がある。左内の藩書「啓発録」は15才の時に著した秀作だ。友人を大事にとの思いに満ちあふれた著作だ。幼少の頃から、その才能は際立っていた。

16代藩主の春嶽には、もう

一人、近侍御用役を務める中根雪江がいて身辺の情報に不足はなかった。

そこで問題になるのが米、英、仏をはじめとする外国との交渉である。左内は外国との貿易を通じて産業を発展させ開国論に、はずみを付ける。それは藩論としても採用され、春嶽の幕府宛建白書の基本とも言われるようになる。

安政の大獄

ペリー来航により国政は大転換を求められる。それは1853年のことだ。

老中首座、阿部正弘は開国を迫るアメリカ大統領の將軍宛親書を各大名に公開して意見を求めたのだ。それは時の政治体制に変革を迫る大きな要因となったのだ。

春嶽は国防充実のため費用負担の大きい参勤交代制の緩和を提案する。

阿部正弘の死後、大老に就任した南紀派の井伊直弼と一橋家の春嶽との間では政権の維持をめぐる、その対立が深くなる。

その結果建白書の根幹を支えた橋本左内を吉田松陰らと共に失うことになった。



戦争が学校の廊下の奥に立っていた

「新しい戦前になるんじゃないか」

大阪 原野 通有



タモリ氏

タイトルのようにあのタモリがテレビの《徹子の部屋》でつぶやいた。政治的発言をしてこなかった彼の発言に込めた思いは？「戦争が廊下の奥に立ってゐた」との句を渡辺白泉が詠んだのは昭和17年。国民の多くにとって戦禍がまだ対岸の火事だったが、2年後に日本は破滅の道をもつしぐらに進んだ。「気が付けば玄関に自衛隊が立ってゐた」という事態になってきた。連日連夜テレビに登場する防衛研究者、元自衛官、軍事評論家なる人々はしたり顔にウクライナ情勢を説き、日本の軍備拡大を唱える。

私は彼らの口からまだ一言半句も聞いたことは無い。

「戦争はいけない」「私らが必要となつてはダメですよ」「軍備で抑制するよりも平和外交で平和をまもるべきですよ」と。戦前のように軍人(系)が大きな顔をする、できる社会は避けるべきだ。戦車の性

能なんぞ知らなくて良い。人殺しの爆弾の殺傷能力などで議論したくない。彼らはまるでゲーム解説をするかの如く、他人事の如く平然と語る。まるで戦争による自分らの出番を待っていたかのように、軍人には出番がない方が宜しい。日本の国土で軍人が戦う時は、日本は、そして世界は破滅なのを分かっているのか？

国民は戦争を止められない。日本でも、習近平氏や金正恩氏の独裁下の国民も、いや大統領選挙制度のあるロシアでも民意を誘導、指導、教育、圧力でほぼ独裁だから戦争を止められない。自由と民主主義を謳歌している米国でもあんなトランプ氏を大統領に選び、国会に突入し死者まで出す、起訴までされてもまだ大人気なのだから、言葉や形式だけでは不十分なわけだ。

核戦争を永遠に止めるには世界連邦しかない

ウクライナ侵攻を好機と中台問題を煽って軍備拡大、自派の正当性を主張する輩がいる。それに賛成するくせに増税は反対だと勝手なことを言う。GDPの1%を倍増する

なら増税するのは当然だ。世界第三位の軍事大国を目指すのを賛成するなら軍備の為に生活を犠牲にする覚悟が必要だ。平和憲法なんぞぶっ飛ばして、ならず者3カ国と武力で決着つける決意があるのか？オツと待て！近代兵器戦では勝つてもこちらも恐ろしいまでの被害を受けるのは承知なんだろうな。人類誰もが体験したことのない未曾有の惨事があつても軍事的解決を望むのですか？私はそんな怖いことは嫌だからただひたすらに戦争回避を望む。100年くらい前までは戦争と言っても死者を出すことはそう多くなかったが、第一次世界大戦では兵器の発達で飛躍的に、100万人を超す兵士が亡くなった反省で軍縮とか国際連盟へ辿り着いた。が、それでも第二次世界大戦で原爆まで産んでしまった。100年前なら被害はある程度限定的で、日数もかかったが現代は全く違う。

本格的な核戦争はミサイルは時間との争いで悠長なことは言つてられない。想像を絶する、人類滅亡の戦争になるだろう。誤作動で始まったら

世界のリーダーでも止められない。反戦運動でも全く意味がない。だから今のうちに戦争体験はないが、世界の人々が武器よりも外交で問題解決させるべく努力をしなければいけない。

日本の、いや世界の歴史は大多数の国民は政治の主人公でなく、権力者の言うがままに従つて来た。民主主義とは国民が主人公である主義であるはずだが、選挙だけで民主主義と言えるだろうか？今の日本で国民が主人公と思つている人はどれだけいるだろうか？自分達が政治を国を動かしていると感じている人は半分もいるだろうか？投票率が半分前後、自治体選挙でもっと少ない。私はこれを民主主義と言わないで選挙主義と言いたい。国がある限り、国境がある限り争いは絶えない。民族は消滅させられないが国益は共有できるのではないか？国益を主張する限り戦争の種は尽きない。されば究極的に全面核戦争が起こらないうまに世界連邦を樹立しなければいけない。それが核戦争を永遠に封じる唯一の方法ではないか？

八十の手習い

岡安 慶子

1年のうちで桜が咲く時が一番好きである。この時期は出会いと希望で光が一層きらめくからである。特に今年は点字の勉強が始まる。

先日、点字図書館から紹介された日本盲導犬協会からいらした二人の先生と今後の教育方針を2時間程話し合っただ。私に最も合った教育をして欲しいので自分を飾らず、生い立ち、生活をすべて話した。

点字をすらすら読みこなすには数年かかるそうだ。難しいからといって足踏みをしたら私は文盲になってしまう。私には足踏みなどしている暇はない。

夫から聞いた話だ

が、TV「徹子の部屋」に出演したタモリが「今年が新しい戦前にならねば良いが……」と発言したそうだ。普段、政治的発言をしていない彼の言葉に驚いた。「戦争反

対」の声を上げる人が少なく、恐ろしさを感じていた私にはピツタリだったからだ。戦争が近づけば近づくほど、弱者は社会の余計者として切り捨てられていく。先の戦争がそうだった。

しかし、私は恐怖だけを感じているのではない。医学、科学の進歩を信じている。緑内障の患者が多いのだから研究者も多いはずである。良い薬の開発もめざましい。また治療だけでなく病気そのものの発生も抑えられるかもしれない。また視覚障害者用の生



活用品の開発も進むだろう。

将来、白杖をつき一人暮らしになった時は適切な施設に入所するだろう。そんな時も八十の手習いは強力な助っ人になるだろう。

余録

「伊藤俊洋先生から送っていただき、Life Crossing 72号」を拝見しました」として馬淵清資先生から次のようなお便りをいただきました。

「大仏師松本明慶師の記事、『木の中に仏』という表現に、深い感銘を受けました。それで他の記事も拝見しました。表紙の版画と矢島氏の記事には衝撃を受けました。

私は40年前から、原発事故は必ず起きると唱えていた人間です。大学の授業のシステム工学の授業で、非線形シス

編集後記

風薫るさわやかな季節とは

対照的に、人間世界の営みは洋の東西を問わず混沌の中に▼大阪府知事・大阪市長選に挑んだ2人の女性から各々の選挙戦が語られました。圧倒的強さの維新相手に「勝ち目なし」と見越し、誰も土俵に上がらなかつた状況に臨んだ

テムなので、科学技術がどんなに進歩しても、安全は得られない。その例として、福島第一原発で頻繁に起きているトラブル事例を説明しているした。それは、あの事故の2年前2009年のことです。

あの事故が起きたとき、高い授業料をはらったけど、これで原発がなくなるなら、将来は明るいと思つた次第です。残念ながら、そうはならなかつた、悲しいことです。小沢氏を始め、他の記事も、とても素晴らしいと思えます。今後、講読したいと思

います。紙を節約したいので、メールにPDF添付で、お願いします、知り合いにも

闘いの記録です。立場の異なる者同士の共同作業でこじあけた新地平の心意気。清々しい風が吹き抜けました。ぜひ読んで下さい▼同じく江東区議選で「ないない尽くしの選挙戦」を展開した酒井区議。制約ありの環境を工夫し、旧態依然の選挙スタイルでなく必要に迫られての選挙手法で思いを伝えました▼台湾からの寄稿内容に、編集部でも喧喧諤諤。さまざま意見があ

配布します。なお、この雑誌、無料とのことですが、資金を寄付させていただきます。口座情報をご通知ください。別件ですが、私も寄稿をさせていただければ幸いです。」

(馬淵清資 km@kitasato-u.ac.jp 自己紹介「ウィキペディア」(Wikipedia))

編集部より

このようにして寄稿していただいたのが『ある憂鬱』です。以前に書かれた作品を色んな場で社会に警告するために広く掲載先に常に求めてこられたそうです。地球の滅亡とはワクワクするテーマです。馬淵先生はバナナでの滑倒の研究で有名な方です。

つて当たり前で、台湾からの発言は「こうあるべし」と思い込んだ私たちのステレオタイプ化した思考を逆照射する機会に。当誌のコンセプトを大切にしなす。思いを誌上に寄せて下さい▼ゴルバチョフらが切り拓いた核軍縮の世界は遠い昔となりました。私たちは一体どこへ向かうのか。人智の限りを尽くす広島サミットとなつてほしいものです。

映画監督にして画家 増山麗奈の駆け巡り!



第21話

UAEのドバイで 絵を売り込もう(上)の巻

増山麗奈さんと小誌は彼女が2016年の参議院東京選挙区から出馬した頃からのご縁です。映画監督、反戦、反原発の市民運動家、芸大油画科中退の画家、ジャーナリストと多彩な顔を持つ彼女に寄稿をお願いしたのがきっかけでした。次から次へと新たな活動を展開する増山麗奈さん。走ってないと自転車が倒れるかのように新しいことへ挑戦し続ける性分なのでしょう。彼女から送られてきた原稿を読むたび、編集部は彼女の行動力や真実を求め続ける姿勢についても驚いていました。

その増山麗奈さんが「ドバイ（アラブ首長国連邦）の展示会へ乗り込み、自身の絵画を売って来る！」と言いつけられたので、編集部一同あつげにとられ、本当にそんなことが可能だろうかと心配していたら、彼女から長い原稿が届きました。やはり彼女はただ者ではなかったかな。今回届いた原稿は3回に分けて連載させて頂きます。

ドバイ。世界一の超高層ビルが繁栄を知らしめる。しかしそこから20分離れると、所狭しとびっしり電気街の看板が立ち並ぶ旧市街があり、常に渋滞する道路を横切って、資材を抱える褐色肌のバンダラディッシュ人やインド人が闊歩している。建物内部ではケミカルな染料と汗の匂いが充満し深夜までミシンが稼働する。

油田発見と共に、砂漠の真ん中に突如現れた摩天楼。不動産価格は二十倍から百倍に高騰し、法人税ゼロ優遇により海外から多数の起業家が訪れる。

ドバイといえばセレクトなイメージがある。しかし経済を支えているのは人口比8割の移民で、そのほとんどが平均月収5万円の労働者階級である。インドやパキスタン、そして北朝鮮とロシアの国境ウ



アラブ首長国の王族が増山麗奈の絵を購入した

ラジオストックからも労働者が派遣され、非合法の売春はベトナム人女性が人気らしい。残念ながら、アラブ首長国連邦での日本企業の影響力は、韓国や中国に追い抜かれている。トヨタの高級車レクサスの評価は高いが、韓国車

KIAのシェアが広がり、携帯、家電もサムソンや中国メーカーにシェアを握られている。2009年ドバイショックが大きなターニングポイントだった。一時期は8000人を超えた在UAE日本人も現在では4000人にまで減っている。

最近では法人税ゼロ（2023年6月から9%）という安い税率に惹かれ、仮想通貨で資産を築いた若い資産家がドバイ移住に訪れるケースが増えている。

中東のテレビで 日本アニメ放映

ドバイの街中を歩けば「中国人?」「韓国人?」「ベトナム人?」と聞かれ、なかなか日本人だとわかってくれない。でも東京から来たといえれば笑顔になって「マンガ!」「アキハバラ!」といわれた。もし日本企業が中東で再び花開くとしたら可能性はアニメにあるかもしれない。

中東の人々は日本のアニメ

が大好きだ。70年代の『ベルサイユのばら』や『未来少年コナン』の中東全域でのテレビ放映、2000年代前半に始まった24時間アニメチャンネル「スペースチューン」の上映コンテンツの7割が『グレンダイザー』などの日本のアニメだ。

今回は「ワールドアートドバイ2023」で、出版社クラブハウスが管理するアニメブースに参加し、その熱を肌で感じる事ができた。「ワールドアートドバイ2023」は、3月9日〜12日までドバイの中心地、ワールドアートドバイで開催された世界最大級の現代アート国際展である。

一点数十万円、数百万円、数千万円の絵を展示するニューヨークやシンガポールのギャラリーブースがひしめく中で、アニメグッズやフィギュアを展示販売する私たちのブースは常に子どもたちや若者が溢れ異彩を放っていた。通訳の私は休憩も取れないくらいひっきりなしに質問が飛び交う。入場者数は他ブースに比べても一番だった気がする。

(中)の巻へ続く